

## 教育講演Ⅲ

# 半側空間無視の病態理解に向けた臨床評価手法

藤井 慎太郎 氏

医療法人友紘会 西大和リハビリテーション病院

畿央大学大学院 健康科学研究科 博士後期課程

半側空間無視 (Unilateral spatial neglect: USN) は、「大脳半球損症例の反対側に提示された刺激を報告する, 刺激に反応する, 与えられた刺激を定位することの障害」と定義されている (Heilman, 1993)。USN は主に右半球損傷例の約 40%に生じるとされ (Ringman et al., 2004 など)、USN の合併は日常生活動作能力の低下 (Katz et al., 1999) や生活範囲の狭小化 (Oh-Park et al., 2014) といった、社会的活動や参加に多大な影響を与えることが報告されている。そのため、リハビリテーション医療をより効果的に行うためには、無視症状の病態を把握し適切な予後予測を立てながら日々の臨床を遂行していく必要がある。

USN の病態基盤として、古典的には頭頂葉損傷によって生じる症候として理解されてきたが、その他様々な病巣で生じることが報告されており、近年では注意ネットワークの障害説が定説となっている (Corbetta and Shulman, 2011)。これは、受動的 (外発的) 注意に関与する腹側注意ネットワークと能動的 (内発的) 注意に関与する背側ネットワークの 2 つの注意システムの機能不均衡によって生じるという仮説である。また無視症状の病態には、覚醒や持続的注意、視覚性ワーキングメモリの低下といった非空間性の注意機能低下の合併も影響するとされている (Husain, 2020; Takamura et al., 2021)。このような様々な症状の合併が、臨床上における USN 症例の病態理解をより困難にしている。

USN の評価には、一般的に BIT 行動性無視検査 (Behavioural inattention test: BIT) が用いられる。BIT は探索課題や模写課題といった多様な構成要素から成り立っており、知覚・探索・表象的要素などの包括的な無視症状の特性が評価可能である。一方で、注意ネットワークの観点を考慮すると、BIT で評価される能動的注意の側面のみならず、受動的注意の側面を含んだ評価手法の選択が不可欠であると考えられる。また、先述した USN の病態の複雑性を考慮すると、視野障害や注意機能、視覚性ワーキングメモリといった各病態に適した評価手法の適応が必要となると考えられる。それら多様な評価を組み合わせて検討することで、各個人の病態基盤 (サブタイプ) を見出すことが可能となると考える。

このように、USN 症例に対する適切なリハビリテーションを遂行するためには、各個人の USN 症例を取り巻く複雑な病態理解が肝要となる。そこで本講演では、無視症状の病態基盤について近年の知見を交えながら解説するとともに、日々の臨床評価においてより的確な病態理解に向けた USN の評価手法について紹介する。

## 講師略歴

---

H25年3月 畿央大学 健康科学部 理学療法学科 卒業

H25年4月 医療法人友絃会 西大和リハビリテーション病院 入職

H27年4月 畿央大学大学院 健康科学研究科 修士課程 入学

H29年3月 畿央大学大学院 健康科学研究科 修士課程 修了

H29年4月 畿央大学大学院 健康科学研究科 博士後期課程 入学

### [関連論文]

#### 筆頭論文:

Y Takamura and S Fujii, S Ohmatsu, K Ikuno, K Tanaka, A Manji, H Abe, S Morioka, N Kawashima. Interaction between spatial neglect and attention deficit in patients with right hemisphere damage. *Cortex*. 2021 141:331-346

#### 共著論文:

S Ohmatsu, Y Takamura, S Fujii, K Tanaka, S Morioka, N Kawashima. Visual search pattern during free viewing of horizontally flipped images in patients with unilateral spatial neglect. *Cortex*. 2019 113:83-95.

Y Takamura, S Fujii, S Ohmatsu, S Morioka, N Kawashima. Pathological structure of visuospatial neglect: A comprehensive multivariate analysis of spatial and non-spatial aspects. *iScience*. 2021 16:24(4):102316

### [受賞]

第14回日本神経理学療法学会学術集会 最優秀賞